

インフォメーション・コーナー

会 告

| | |
|--|----|
| ○平成 26 年度会員名簿の掲載事項について (再) 締切 9 月 30 日 | 66 |
| ○平成 27 年度農業農村工学会賞候補の推薦について (再) 締切 10 月 31 日 | 67 |
| ○平成 26 年度学術基金援助の決定について | 67 |
| ○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い | 67 |
| ○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!! | 67 |
| ○平成 27 年の学会誌表紙写真の募集 夏季締切 9 月 30 日 | 68 |
| ○「水土の知 (農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております! | 69 |
| ○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い | 70 |
| ○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ | 70 |
| ○第 24 回農村道路研究部会研究集会・現地研修会の開催について (第 2 報) 参加申込締切 10 月 10 日 | 71 |
| ○農地保全研究部会第 35 回研究集会の開催について (第 2 報) 参加申込締切 10 月 24 日 | 72 |
| ○平成 26 年度応用水理研究部会講演会の開催について 講演申込締切 11 月 10 日 | 72 |
| ○平成 26 年度 ADCA 地方セミナーの開催について 9 月 27 日開催 | 73 |
| 学会記事 | 74 |

第 82 巻第 10 号予定

展望：藤井克己

- 報文：①指久保ダムの設計と施工における課題と対応：蒔苗春彦ほか
 ②耕うん機の稼働率を向上するための用途の多様化とその課題：成岡道男ほか
 ③長野県のバースクリーン型溪流取水工の進化と新たな展開：赤羽昭彦ほか
 ④水田地帯からの流出水が閉鎖性海域に及ぼす影響：松井 明
 ⑤震災復興のコミュニティ再編における外部者の編入：坂田寧代
 ⑥中山間地域におけるりんご園の耕作放棄発生要因：藤崎浩幸ほか
 ⑦手取川流域における自然資源の機能評価と環境の変化：早瀬吉雄

レポート：メコン河委員会の水利用規則策定プログラム：北村浩二

技術レポート

- 北海道支部：大区画水田における営農作業効率：松川剛士ほか
 東北支部：金ヶ瀬さくら大橋の設計および施工上の工夫：渋谷健一ほか
 関東支部：市街地での鋼矢板護岸排水路の更新工事：松島文也
 京都支部：農道整備事業における名神高速立体交差新設工事：河田祥一郎ほか
 中国四国支部：物部川合同堰地区におけるゲートの施工：北村優彦
 九州沖縄支部：多様化指数を用いたクリークの整備工法の検証：待鳥儀一ほか

小講座：世界農業遺産：内藤絃子

私のビジョン：当たり前のことを大切に：澤田 豊

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

ⓑのマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

| 開催日 | 主催 | 行事名 | テーマ | 開催場所 | 掲載号 |
|-----------------|----------|--------------------------------------|----------------------------------|-------|-------------|
| 平成26年9月19日 | 農村計画研究部会 | 第36回現地研修集会 | ⓑ 中越から地域の再建を学ぶ—新潟県中越地震10年の検証と教訓— | 長岡市 | 82巻7号 |
| 平成26年10月23日 | 関東支部 | 第65回支部大会講演会、講習会 | ⓑ — | 前橋市 | 82巻6, 7号 |
| 平成26年10月24日 | 土壌物理研究部会 | 平成26年度研究会 | ⓑ 現場技術のなかの土壌物理(仮) | 仙台市 | 82巻7号 |
| 平成26年10月29日 | 北海道支部 | 第63回研究発表会 | ⓑ — | 札幌市 | 82巻8号 |
| 平成26年10月29, 30日 | 九州沖縄支部 | 第95回講演会・シンポジウム・現地見学会 | ⓑ — | 佐賀市 | 82巻6, 8号 |
| 平成26年10月30, 31日 | 東北支部 | 平成26年度総会・第57回研究発表会・第47回研修会・第37回地方講習会 | ⓑ — | 仙台市 | 82巻6, 7, 8号 |
| 平成26年11月5, 6日 | 中国四国支部 | 第69回支部講演会・第38回地方講習会 | ⓑ — | 鳥取市 | 82巻7, 8号 |
| 平成26年11月6, 7日 | 農村道路研究部会 | 第24回研究集会・現地研修会 | ⓑ 農道の長寿命化について | 津市 | 82巻7, 9号 |
| 平成26年11月13日 | 京都支部 | 第71回研究発表会 | ⓑ — | 岐阜市 | 82巻4, 6号 |
| 平成26年11月26, 27日 | 農地保全研究部会 | 第35回研究集会・現地研修会 | ⓑ 都市における農地の保全とその役割 | 藤沢市ほか | 82巻7, 9号 |
| 平成26年12月3日 | 北海道支部 | 支部研修会・シンポジウム | ⓑ — | 札幌市 | — |
| 平成26年12月4, 5日 | 応用水理研究部会 | 平成26年度講演会 | ⓑ 農業農村工学分野における応用水理学に関する研究 | つくば市 | 82巻9号 |
| 平成27年1月20日 | 北海道支部 | 支部講習会 | ⓑ — | 札幌市 | — |

平成26年度会員名簿の掲載事項について(再)

平成26年度版の当学会会員名簿の発行に係る掲載事項については、個人情報の保護に関する法律の規定に基づき、従来どおり当学会の「会員名簿の発行に伴う個人情報の扱い」により対処しますので、掲載事項としている下記の事項について、掲載に同意されないものがあれば、会員番号と氏名を明記のうえ、郵送、E-mail またはFAXで、9月30日(火)までにご連絡下さい。(非掲載項目につきましては、前年度までにご連絡を頂いていて、変更のない場合は再度ご連絡を頂かなくても結構です。)

なお、ご連絡がない場合は、下記事項の掲載に同意されたこととさせていただきます。

記

会員名簿掲載事項

- ①【氏名】 ②【会員番号】 ③【出身校】 ④【卒年】
⑤【資格】 ⑥【勤務先および役職】 ⑦【自宅住所】
⑧【自宅電話番号】

連絡先

郵送の場合：〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会 櫻木あて

E-mail の場合：suido@jsidre.or.jp

FAX の場合：03-3435-8494

(参考)

会員名簿発行に伴う個人情報の扱い

以下の項目を遵守することによって、個人情報取扱義務を全うする。

1. 利用目的の特定、利用目的による制限
農業農村工学会会員名簿の作成業務及び会員管理にのみ利用し、この範囲を超えて利用しない。
2. データ内容の正確性の確保
個人情報の正確性、最新性を確保する。
3. 安全管理措置、従業者、委託先の監督
安全管理のために、学会職員、印刷業者等に対して必要かつ適正な監督を行う。
4. 第三者提供の制限
名簿は、公益社団法人農業農村工学会定款第6条に定める会員及び同会員が所属する機関に限り原価にて頒布する。

平成 27 年度農業農村工学会賞候補の推薦について（再）

平成 27 年度の農業農村工学会賞（上野賞，沢田賞を除く）を，本誌 82 巻 6 号 58～59 ページ掲載の募集要項に則って，推薦書によりご推薦下さい。

締切は，平成 26 年 10 月末日です。推薦書様式および授賞規程は学会ホームページをご参照下さい。

平成 26 年度学術基金援助の決定について

平成 26 年度学術基金の援助は，下記の 6 名に決定いたしました。

期 日 2014 年 10 月 30～31 日

記

研究奨励援助

研究課題 水源地買収行動を想定した規制的土地利用計画に関する実証研究

代表者 山下良平 石川県立大学生物資源環境学部
共同研究者 有賀健高 石川県立大学生物資源環境学部

氏 名 田中宣多 京都大学大学院農学研究科
出席会議 PAWEES 2014 International Conference
場 所 台湾，高雄市
期 日 2014 年 10 月 30～31 日

研究課題 地震による液状化が津波による海岸堤防背後地盤の洗掘に及ぼす影響

代表者 澤田 豊 神戸大学大学院農学研究科

氏 名 山崎琢平 東京大学大学院農学生命科学研究科
出席会議 The 20th, World Congress of Soil Science
場 所 大韓民国，濟州市
期 日 2014 年 6 月 8～13 日

国際学術会議出席援助

氏 名 山崎由理 岩手大学大学院連合農学研究科
出席会議 PAWEES 2014 International Conference
場 所 台湾，高雄市

氏 名 石橋咲耶 東京大学大学院農学生命科学研究科
出席会議 The 20th, World Congress of Soil Science
場 所 大韓民国，濟州市
期 日 2014 年 6 月 8～13 日

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は，農業農村工学の学術・技術の発展を通じて，わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし，昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ，農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり，東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには，若い世代の育成，新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は，これら諸活動に資するものとして，平成 3 年 4 月に学術基金を創設し，これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し，さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては，会員各位からの多くのご支援をいただきたく，お願い申し上げます。

なお，この学術基金は今後，学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000 円（何口でも可）

法人会員一口 50,000 円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 （社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では，学会員であり，かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として，平成 17 年 10 月号より農業農村工学会誌「水土

の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり，かつ CPD 個人登録者は，どなたでも無料で参加することができ，通信教育分【ac】として年間最大 24 CPD を取得する

大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加下さい。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月10問を出題

3. 解答方法

Web画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前にWeb利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌8月号掲載の問題は9月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10問正解で2CPDを、7～9問正解で1.5CPDを自動登録

（正解数6問以下の場合はCPD単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得したCPDは、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成27年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成27年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連続と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつかは、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

す。農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそれを含み景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦勞が垣間見える造形美」

2. 対象巻号

学会誌第83巻（平成27年1～12月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4サイズも含まれます）。なお、六つ切りは203×254mm、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限り画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき20MB以下とし、形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切

夏季 平成26年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限り

6. 審査

審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第83巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成27年度全国大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1点につき3万円）をお支払いします。また、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用权

採用作品の使用权は（公社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会
 農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494
 E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌 82, 83 巻の小特集のテーマ

| 小 特 集 テ ー マ | | 要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内) |
|-------------|---|---------------------------|
| 82 巻 | 10 号 小特集なし | 公募なし |
| | 11 号 先人たちが拓いた田畑, 施設, 水遣いの今一世代をこえて引き継がれる財産 (仮) | 公募終了 |
| | 12 号 国土強靱化に資する農業水利施設の更新技術の今 (仮) | 公募終了 |
| 83 巻 | 1 号 国際的な研究協力とその波及効果 (仮) | 公募終了 |
| | 2 号 農業農村工学分野における ICT 活用の現状と今後 (仮) | 9 月 16 日 |
| | 3 号 河川における環境配慮の技術 (仮) | 10 月 15 日 |
| | 4 号 次世代に求められる水利システムの姿 (仮) | 11 月 17 日 |
| | 5 号 国際土壌年関連 (仮) | 12 月 15 日 |
| | 6 号 大会関連 (仮) | 公募なし |

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さい。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り 4 ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4
 公益社団法人 農業農村工学会
 農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
 TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494
 E-mail：henshu@jsidre.or.jp

83 巻 2 号テーマ「農業農村工学分野における ICT 活用の現状と今後」(仮)

ICT (Information and Communication Technology) とは、情報処理と情報通信に関連する技術の総称です。総務省は平成 25 年 7 月に ICT 成長戦略を公表し、ICT による農業における新たな高付加価値産業の創出や社会的課題の解決を目指しています。さらに内閣府は、平成 26 年 5 月の戦略的イノベーション創造プログラムにおいて次世代農林水産業創造技術の研究開発計画を公表し、ICT による「スマート農業」の社会実装を目標に掲げています。これまでの農業農村工学分野における ICT は、ダムや農業用水利施設から末端の圃場までの計画・設

計、施工、および運用・維持管理の各段階において、さまざまな数値解析や監視・制御の手法などと組み合わせられ、現場に普及されてきました。今後、上記の新たな ICT 戦略 (政策) を推進するためには、既往の技術を維持または発展し、新技術の導入を図っていくことが期待されます。

そこで本小特集では、農業農村工学分野における ICT の活用に関して、これまでの取組みと今後の展望や課題について、学会員から広く報文を募集いたします。

83 巻 3 号テーマ「河川における環境配慮の技術」(仮)

河川においては、「多自然川づくり (※)」が進められてきたところですが、平成 22 年に出された「中小河川に関する河道計画の技術基準について」において、護岸や寄り洲の考え方が更新されました。それに伴い、パープ工など堆砂をコントロールする技術の研究が活発に行われています。一方、農業水路では、環境との調和に配慮した水路整備が進められてきているところです。河川のご概念や手法をただちに農業水路に取り入れることは難しくとも、基本的な考え方については、農業水路の構造・水理機能の維持と生態系の保全とを両立させる上で学ぶべ

きところが多いと考えます。

元来、農業水利施設は、河川とつながって機能を発揮するため、取水や排水流末において河川構造物の設置とあわせて水制工、沈砂池や排砂技術を培ってきた歴史があります。最近では、頭首工の更新などに際して、環境との調和に配慮した魚道整備も検討されてきています。

本小特集では、河川における環境配慮の技術と題して、堆砂制御や生物の生息環境を考慮した水理構造物の工夫、農業水利施設の維持などへの展開、伝統的な水制技術などの再評価、な

どに関する報文を広く募集します。

※「多自然川づくり」は国土交通省が提唱する環境に配慮した川づくりの名称です。平成2年に取組みが始まった「多自然型川づくり」から、その後

「型」が取られ、普遍的な川づくりを基本とすることが明確にされるようになりました。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが1.247と高く、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)

- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

出版社 : Springer-Japan 社

発行スケジュール : 年4回

購読料 : 正会員・名誉会員 12,343 円

学生会員 (院生含む) 8,743 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

申込先 : 農業農村工学会編集出版部 中村あて

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012年1月から2014年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2014年7月に Vol.12, No.3 が発行されました。

本ジャーナルは2009年12月より、トムソン・ロイター社の SCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIE の IF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルは IF=1.247 と高い評価を得ております。

また、世界14カ国から Editor (23名) を選出することにより、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員で PWE 誌の購読者に限りませんが、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2012年1月から2014年12月までの編集事務局は日本です。
投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) をご利用下さい。

編集事務局 : Dr. Yoshiyuki SHINOBI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmen-

tal Sciences, Kyushu University.

6-10-1 Hakozaki Higashi-Ku, Fukuoka-shi, 812-8581
Fukuoka, Japan

TEL : +81-92-642-2909 FAX : +81-92-642-2914

E-mail : yshinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp

編集方針 : 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

・ Editor-in-Chief : Dr. Masaru MIZOGUCHI (Japan)

Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

・ Editors 14カ国から23名

・ Editing Board 26名

・ Chief Management Editors

Dr. Yoshiyuki SHINOBI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

Dr. Jin Yong CHOI

Department of Landscape Architecture and Rural Sys-

tem Engineering, Seoul National University, Korea

・ **Managing Editors**

Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin LIN

Department of Bioenvironmental Systems Engineering,

National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Ming-Daw SU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

出版社：Springer-Japan 社

投稿資格：筆者が農業農村工学会員でPWE誌の購読者であること。

投稿要領等：http://pawe.edmgr.com/に詳細を記載しています。

第24回農村道路研究部会研究集会・現地研修会の開催について（第2報）

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農村道路研究部会では、以下のとおり第24回研究集会および現地研修会を開催しますので、ご案内いたします。多くの皆様の参加をお待ちしております。

1. **特定課題** 農道の長寿命化について

2. **期日** 平成26年11月6日（木）研究集会
平成26年11月7日（金）現地研修会

3. **研究集会**

(1) 日時：11月6日（木）13：00～17：00
(受付開始12：30)

(2) 会場：三重県教育文化会館
〒514-0003 三重県津市桜橋2-142
TEL：059-228-1122

(3) 発表内容：①招待論文：特定課題
②研究論文：特定課題および農村道路に関わる研究課題
③技術報文：農村道路に関わる計画・調査・施工の自由課題

(4) 参加費：4,000円/人

4. **現地研修会**

(1) 日時：11月7日（金）8：30～17：00（予定）
(2) 研修地：松阪～伊勢周辺の農道整備事業現場
津駅 → 広域農道整備事業見学 → 昼食 → 基幹農道整備事業見学 → ふるさと農道緊急整備事業見学 → 伊勢市駅（15時半頃到着予定）、津駅（16時半頃到着予定）、セントレア連絡船停泊港（17時頃到着予定）にて解散
(3) 参加費：2,000円/人（昼食代1,000円が別途必要となります。）

5. **発表申込み**

(1) 研究集会で研究論文、技術報文を発表するためには、発表申込書の提出が必要になります。発表申込書および原稿作成要領は、農村道路研究部会のホームページからダウンロードすることができます。
(2) 発表申込みは、発表申込書に必要事項を記入の上、E-

mailに添付して申込先に送信して下さい。発表申込みを行う際のメールの表題は「農村道路研究部会研究集会の発表申込み」として下さい。

(3) 発表申込締切：平成26年9月5日（金）
原稿提出締切：平成26年10月3日（金）

6. **参加申込み**

(1) 参加申込みは、参加申込書を農村道路研究部会のホームページからダウンロードし、必要事項を記入の上、E-mailに添付して申込先に送信して下さい。参加申込みを行う際のメールの表題は「農村道路研究部会研究集会の参加申込み」として下さい。
(2) 参加申込締切：平成26年10月10日（金）
(3) 参加費は、原則として参加申込みと同時に以下の銀行口座に納金（振込手数料は参加者でご負担）願います。やむを得ない理由がある場合には現地支払い、事後振込みも可能ですので、参加申込みの際に事務局までご連絡下さい。

銀行名：ゆうちょ銀行 ○〇八支店（店番号008）
口座番号：普通預金 7275973
口座名：農村道路研究部会

7. **発表・参加申込先および原稿提出先**

東京農業大学地域環境科学部 竹内 康
〒156-8502 世田谷区桜丘1-1-1
TEL：03-5477-2334 FAX：03-5477-2620
E-mail：bamboo@nodai.ac.jp

8. **部会ホームページ**

農村道路研究部会のホームページは、以下のURLです。
http://www.nodai.ac.jp/eng/original/hyse/JSIDRE/AnnualMeeting.html

また、農業農村工学会のホームページ（http://www.jsidre.or.jp/）の中の「研究部会」→「農村道路研究部会」からでも行くことができます。

9. **宿泊** 各自で手配下さい。

農地保全研究部会第35回研究集会の開催について (第2報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



農地保全研究部会では、下記の要領で研究集会・現地研修会を企画しました。今回は、農地の保全と活用のあり方について、関連の報告を交えながら特に都市域にスポットを当てて考えてみたいと思います。また、恒例となりました震災後の農業農村の復興状況に関する報告もごさいます。皆様のご参加をお待ちしています。

1. テーマ 都市における農地の保全とその役割

2. 開催日

- ・研究集会 平成26年11月26日(水)
- ・現地研修会 平成26年11月27日(木)

3. 場所

- ・研究集会 日本大学生物資源科学部 本館14階 NUホール (神奈川県藤沢市)
- ・現地研修会 神奈川県中西部(藤沢市・伊勢原市・秦野市)

4. 研究集会内容

(1) 講演

「都市近郊農地における牛糞堆肥の施用と *E.coli* の流出対策」 東京農業大学教授 三原真智人
 「農地・緑地・河川による都市暑熱化緩和のリモートセンシング解析」

日本大学生物資源科学部准教授 串田圭司

「宮城県における農業農村の復旧復興状況について」

宮城県農林水産部農村振興課技術副参事 岩佐郁夫
 「農地保全関連事業の現状と課題」

農村振興局整備部防災課海岸・災害事業調整官 遠藤知庸

「都市農地の利活用を巡る新たな動きについて」

(一財)都市農地活用支援センター常務理事 佐藤啓二
 「神奈川県都市農業推進に向けた農地保全の取組」

神奈川県環境農政局農地保全課農地活用グループリーダー 平岡稔幸

「横浜市の市民農園制度をはじめとした農地保全の取り組み」 横浜市環境創造局みどりアップ推進部

農地保全課課長補佐 内田義人

(※講演順など一部が変更される可能性があります。)

(2) 総合討論

座長：三重大学大学院教授 成岡 市

(3) 情報交換会 (場所：研究集会会場と同一建物内)

5. 現地研修会内容

- ・藤沢駅集合
 - ・伊勢原市・秦野市方面にて、現地見学・研修(ホームファーマー体験研修農園、農業構造改善事業、里地里山保全等推進事業など)
 - ・横浜駅解散(予定)
- (※詳細は、追って学会ホームページでお知らせします。)

6. 参加費および申込み

- (1) 参加費 研究集会 3,000円
- 情報交換会 4,000円
- 現地研修会 4,000円

(2) 申込み・問合せ先

〒252-0880 神奈川県藤沢市亀井野 1866

日本大学生物資源科学部生物環境工学科

地域環境保全学研究室 笹田

E-mail: sasada.katsuhiko@nihon-u.ac.jp

TEL&FAX: 0466-84-3836 (直通)

(3) 申込み方法および参加費の振込先

上記メールアドレスに、①参加者所属、②参加者名、③参加する会(研究集会・情報交換会・現地研修会)、④参加費振込予定日、⑤その他(質問など)を記載し、お送り下さい。その後、参加費を振り込みいただいた時点で申込み完了とさせていただきます。

(4) 振込先

- ・ゆうちょ銀行から振込みされる場合
ゆうちょ銀行 記号 10290 番号 94715621
- ・他の銀行から振込みされる場合
ゆうちょ銀行 (9900) 店番 082 普通 94715621
農地保全研究部会(ノウチホゼンケンキョウブカイ)

(5) 申込締切 平成26年10月24日(金)

平成26年度応用水理研究部会講演会の開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



応用水理研究部会では、平成26年度応用水理研究部会講演会を下記のとおり開催いたします。皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

1. 日時 平成26年12月4日(木) 13:00

～5日(金) 12:00

(変更の可能性あり)

2. 場所 農林水産省農林水産技術会議事務局筑波事務所

(茨城県つくば市観音台2-1-9, 農村工学研究所の近く, <http://sto.affrc.go.jp/outline/access>)

3. 課題 農業農村工学分野における応用水理学に関する研究

4. 発表時間 1課題当たり20～30分

5. 講演申込締切 2014年11月10日(月)

6. 発表原稿

学会講演会と同じA4の様式とします。PDFファイルあるいはMSワードファイルでの提出をお願いいたします。枚数制限はありません。講演要旨集は、講演会終了後に当研究部会のホームページ (<http://www.jsidre.or.jp/bukai/ouyousuiri/>) にアップロードする予定です。

7. 原稿提出方法

E-mailの添付ファイル、CD-ROM、DVDのいずれでも結構です。なお、講演を申し込まれる方は、11月4日(火)までに発表者名と講演課題名を下記**11.問合せ先**までお知らせ下さい。

8. 参加申込み

講演会に参加希望の方は、11月20日(木)までに下記**11.問合せ先**までお知らせ下さい。なお、12月4日(木)18:00～

20:00に情報交換会を予定しております。

9. 参加費 講演会参加費 3,000円
情報交換会費 未定

10. 宿泊

講演会会場の農林水産技術会議事務所付属の研修生宿泊施設に廉価で宿泊可能です。講演会参加希望者には別途ご案内します。

11. 問合せ先

〒305-8609 茨城県つくば市観音台2-1-6
(独)農研機構農村工学研究所 樽屋啓之
TEL:029-838-7565 FAX:029-838-7609
E-mail:taruya@affrc.go.jp

平成26年度ADCA地方セミナーの開催について

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



- 1. **テーマ** 国際協力への第一歩
～未来のグローバル人材に求められるスキル～
- 2. **日時** 平成26年9月27日(土)13:15～17:00
(受付開始 13:00)
- 3. **場所** 日本大学生物資源科学部藤沢キャンパス
本館大講堂
- 4. **対象** 農業・農村開発, 工学, 社会科学系に興味を持つ
学生, 技術者(民間企業, 地方公共団体)
- 5. **主催** (一社)海外農業開発コンサルタンツ協会
共催:日本大学生物資源科学部
後援:農林水産省, (独)国際協力機構,
(公社)農業農村工学会
- 6. **プログラム(予定)**
13:15～13:30 主催者挨拶, 共催者挨拶, 来賓挨拶
第1部 講演
13:30～14:20 基調講演
「FAOの役割と国連職員への道(仮題)」
国際連合食糧農業機関駐日連絡事務所所長
ポリコ・M・チャールズ
14:20～14:50 講演

- NTC インターナショナル(株) 代表取締役社長
岩本 彰
- 第2部 現場からの報告
15:05～15:25 報告
三祐コンサルタンツ(株) 海外事業本部執行役員
家泉達也
15:25～15:45 報告「国際協力を仕事にするには」
カメルーン国熱帯雨林地域陸稲振興プロジェクト
JICA 専門家 栗原一寿
- 第3部 パネルディスカッション
16:05～16:55
パネリスト:倉内伸幸(日本大学生物資源科学部教授)
石垣真奈((株)アイ・シー・ネット)
矢野大悟
(株)オリエンタルコンサルタンツ)
ほか コンサルタント1名程度
モデレーター:西牧隆壯(東京農業大学客員教授)
16:55～17:00 閉会挨拶
セミナー終了後
17:00～17:30 パネル展示・学生個別相談